2015年1月26日

　　要　請　書

原発に危惧と不安を覚えている県民との対話の場を設けてください

佐賀県知事　山口祥義　様

原発を考える鳥栖の会、　玄海原発対策住民会議、　さよなら原発！佐賀連絡会

九州玄海訴訟原告団・弁護団、　プルサーマルと佐賀県の１００年を考える会

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会

私たちは佐賀県内で原発の様々な課題に取り組んできた市民団体です。佐賀県は県民の命と、安全・安心に関わる九州電力玄海原子力発電所を抱えており、この事は県政の最重要課題です。特に２０１１年３月１１日に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故においては、今なお甚大な被害が発生し続けております。原発で一度過酷事故が起きれば途方もない被害が及び、そこに暮らす人々の生活も、命も、健康も、家族も、社会も、経済活動も全てが破壊されてしまうことを知らされ、佐賀に暮らす私たちにとって、とても他人事とは思えず、言い知れない不安を感じています。

山口祥義知事は今回の佐賀県知事選挙において、「佐賀のことは佐賀で決める」と述べて多くの県民の支持を得られ、県知事に当選されました。選挙公約の中では「県民一人一人との対話を大切にする」「皆で輪になって、オープンな議論を積み重ねていくことが何よりも大切」とも述べておられます。また「県知事が判断する上で寄り添うべきは県民」だとも発言しておられます。私たちは、知事の本来の職務は県民の安全・安心を第一の事として県政に取り組む事だと考えますので、私たちの命を託す貴職のこの姿勢に多いに期待しております。

古川康前佐賀県知事はこの姿勢に著しく欠けていたと言わざるを得ません。前知事は県内の経済団体の再稼働要請に際して、あるいは原発を推進する九州電力の幹部との直接面談は積極的に行いました。しかし、肝心の県政の主人公であり、原発による様々な影響にいい知れない不安を覚える県民の再三の要請にも関わらず、直接対話を避け続け、在任期間中は一度も私たちとの面会は実現いたしませんでした。この事は明らかに公正さに欠けており、真摯に県民の声に耳を傾けようとはしない知事の姿勢は県民の不信感を増幅させることに繋がりました。

山口祥義知事は就任後、九州電力玄海原子力発電所の再稼働問題に関して次のよう発言をしておられます。「あくまでも安全性の確認と、県民の意見を聞く、この２点をしっかりとやっていく」（１月１３日NETIBNEWS）。「（玄海原発の再稼働については）何よりも安全が大切だ。きっちりした情報を基に、地域住民や県民の皆さんと意見交換をしていく」（１月２３日毎日新聞）。佐賀県政の最重要課題である原発の問題は、まず経済の課題ではなく命の問題であり、私たち子どもの世代の安全、安心に関わる問題です。新知事は県民と意見交換をし、その声に耳を傾けると言われておられるのですから、是非、原発が存在することによって不安を覚え、また未来の世代の命の事も大切にしている私たちに寄り添い直接面談する場を設けていただきたいと願い、ここに要請を行います。

要請：山口祥義知事は、原発に様々な危惧と不安を覚えている私たち県民と直接面談を

行い、私たちとの対話の場を設けて下さい。

連絡先：新知事要請行動連絡会　世話人　野中宏樹（Tel：090-4276-4438）